

腓 骨 筋 腱 脱 臼



腓骨筋腱脱臼

症状

足関節外果後方で脱臼感とともに、腓骨筋腱が腓骨に乗り上げて痛みや腫脹を生じる。反復性脱臼に至る症例も多く、スポーツや日常生活で脱臼を繰り返し、痛みや脱力感を感じる。



腓骨筋腱脱臼時の肉眼所見

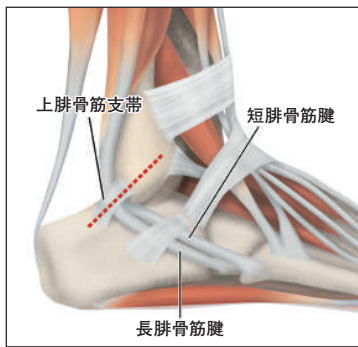
原因病態

原因

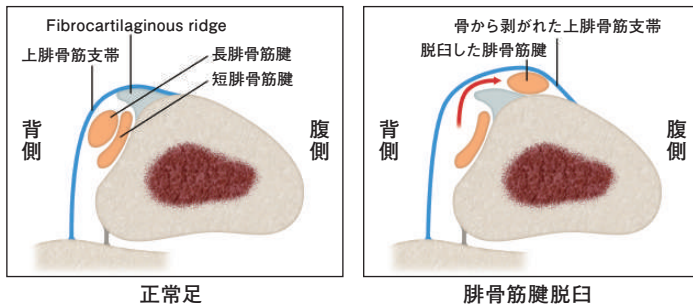
先天性と外傷性のものがあるが、外傷性ものは足関節背屈位かつ外がえしの肢位で、強く腓骨筋が収縮した際に発生するのが典型的な受傷パターンである。スキーやスノーボードで足を板に固定されている状態で足関節を捻ったり、サッカーやバスケットボールなどで、急な方向転換をした際に足関節を捻ったりしたときなどに発生する。短腓骨筋の筋腹低位や第4腓骨筋腱などの破格筋の存在も脱臼の危険因子である

病態

腓骨筋腱（長腓骨筋腱と短腓骨筋腱）は足関節外果後方で走行方向を前方に大きく変えるため、腱が脱臼しないよう上腓骨筋腱支帯と、fibrocartilaginous ridge (FCR) により制動されている。足関節背屈位で腓骨筋に強い収縮が加わると、上腓骨筋支帯やFCRが損傷（FCR付着部が裂離骨折することもある）し、腓骨筋腱が脱臼する。多くは長腓骨筋腱の単独脱臼である。上腓骨筋支帯やFCRが治癒せずに、仮性嚢を形成することで反復性腓骨筋腱脱臼に至る。脱臼に伴い腱の縦断裂がしばしば合併する。また、特殊な腓骨筋腱脱臼として腱鞘内亜脱臼がある。この腱鞘内亜脱臼では上腓骨筋支帯やFCRには大きな損傷がないものの、長腓骨筋腱と短腓骨筋腱の位置関係が入れ替わる脱臼である。



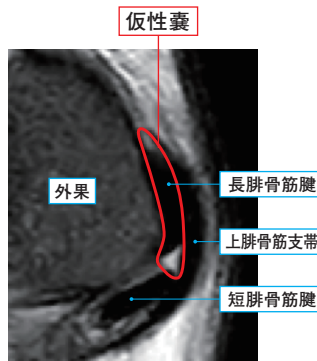
破線部の横断面像



診断

◆以下の状態の時、腓骨筋腱脱臼を疑う（足関節回外捻挫との鑑別が重要）

- 足関節を背屈位で固定された状態で捻って受傷し、外果およびその後方部分に圧痛と腫脹がある（足関節回外捻挫は外果前方に圧痛と腫脹がある）。
- 足関節を捻った際に外果に後ろ側から乗り上げる索状物（腓骨筋腱）を確認できる。
- スポーツなどで急な方向転換をした際に、外果付近にコリッと何かが抜けた感触とともに、脱力感、不安定感、痛みなどを感じる。
- MRIや超音波（エコー）で脱臼している腱や、仮性嚢内に脱臼しかける腱が確認できる（仮性嚢の確認は腱鞘内注射後に超音波（エコー）での確認が有用）。



恒久性脱臼のMRI画像